

2025 年 11 月 吉日

株式会社シード・プランニング

家庭用 AI ロボットの最新動向を調査
2024 年は 106 億円の市場規模
～家庭で利用できるサービスロボットの市場動向と AI 搭載状況～



株式会社シード・プランニング（本社：東京都文京区 梅田佳夫社長、以下シード・プランニング）は、2018 年よりコミュニケーションロボットの調査を続けており、市場動向に注視しております。

この度、家庭用 AI ロボット関連事業者、個人向け AI 事業者、有識者等への取材を通し、家庭用 AI ロボットや関連製品の動向、参入動向、市場等における各動向調査を実施し、市場規模を公開したことをお知らせいたします。

●調査の詳細はこちら

<https://www.seedplanning.co.jp/news/6142/>

◆調査の背景と目的

調査を開始した 2018 年当時、国内で発表・発売されるコミュニケーションロボットは累積約 60 種類以上ありましたが、2023 年の調査時に発売中の家庭用ロボットの種類数は、当時と比べ減少しています。

また、2024 年以降は生成 AI が注目され、ロボットの形や手触り、動き、音、会話など「人に寄り添うため」の様々な工夫がなされた多様なロボットが家庭用ロボット市場へ継続して投入されてきました。

家庭用ロボットは、家庭内に入り込んだ「センサーを駆使した IoT 端末」「高度な AI デバイス」とも言えます。今後もさらに発展し、生活のスマート化を促進し、生活を便利に、快適にすることが期待されております。

シード・プランニングでは 2018 年より継続しているコミュニケーションロボットに関する調査の知見を活かし、今後の家庭生活を一変させる可能性のある家庭用 AI ロボットの今後の考察とともに、調査結果を公開することとしました。

◆調査トピックス

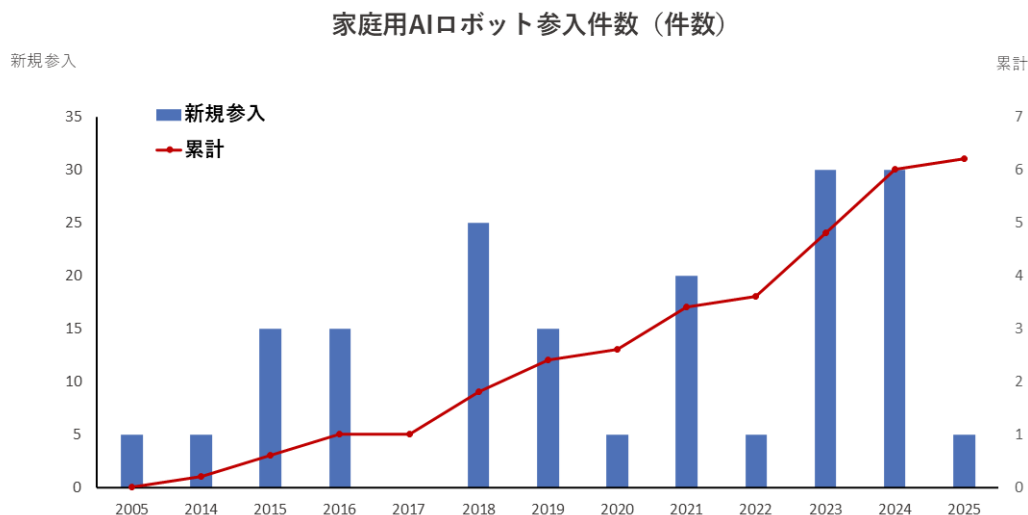
- 2000 年代から発展してきたサービスロボットの 2030 年の可能性。
- 家庭用 AI ロボットの範囲と現状分析。
- 約 30 社の家庭用 AI ロボットの特徴分析
- 家庭用 AI ロボットの市場規模予測。
- 2030 年に向けた家庭用 AI ロボットの進化の可能性。

◆家庭用 AI ロボットについて

●AI 搭載型の家庭用サービスロボット

2022 年 11 月に OpenAI が発表されてから、家庭用サービスロボットに AI 搭載型が増え、2025 年の AI 搭載率は 6 割を超える状態にあります。

2030年に向けた家庭用AIロボットの最新市場動向



シード・プランニング調べ

現在、約 30 の製品があり、10 万円未満は 17 製品、10 万円以上 20 万円未満は 5 製品、20 万円以上は 7 製品があります。

●家庭用 AI ロボットの用途別動向

片付け、コミュニケーション、ペット、案内・接客、見守り、その他で分類を行っています。

2030年に向けた家庭用AIロボットの最新市場動向

片付け、コミュニケーション、ペット、案内・接客、見守り、その他で分類

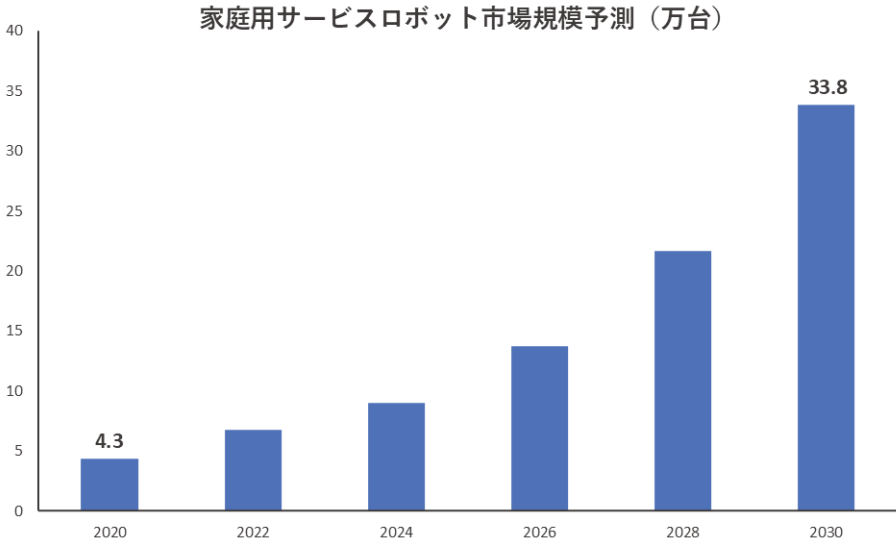
内容	AI搭載	AI非搭載
片付け	カチャカ (Preferred Robotics)	—
コミュニケーション	Pepper (ソフトバンクロボティクス)、RoBoHoN (シャープ)、PALRO (富士ソフト)、Romie (MIXI)、BOCCO (ユカイ工学)、NICOCO (パナソニックE&C)	Chapit (レイトロン)、Qoobo (ユカイ工学)、ブチQoobo (ユカイ工学)、ユビ坊 (ユビテル)、MAMORUNO (ZIPCARE)
ペット	Aibo (ソニーグループ)、Loona Blue (ルーナ・ジャパン)、スマイルけんちゃん (パートナーズ)、Moflin (カシオ計算機)、NICOCO (パナソニックE&C)、LOVOT (GROOVE X)	夢ねこプレミアム (セガフェイブ)、おしゃべりダッキー (タカラトミー)、なでなでねこEX長毛シリーズ (トレンドマスター)、KIMIT (セガフェイブ)
案内・接客、見守り	ZUKKU (ハタプロ)、シナモン (ドーナッツロボティクス)、MAMORUNO (ZIPCARE)	ロボコット (タケロボ)、OriHime (オリィ研究所)
その他	パロ (知能システム)、チャービー (CAIメディア)	—

シード・プランニング調べ

●家庭用サービスロボットの市場規模予測

2020 年の市場規模は 4.3 万台 49.5 億円が、2026 年は 13.7 万台 150 億円、2030 年は 33.8 万台 340 億円へ
2020 年と 2030 年では台数で約 8 倍、金額で約 7 倍の変化があります。

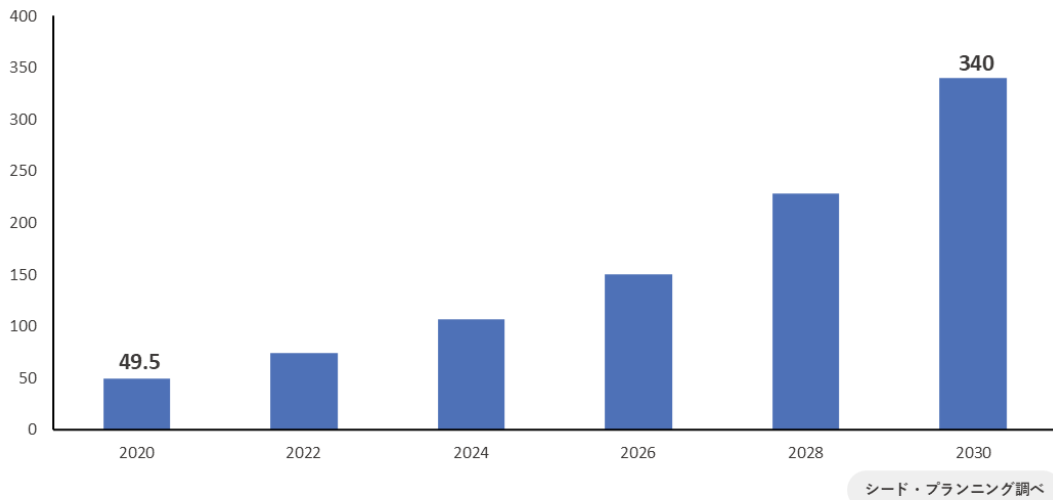
2030年に向けた家庭用AIロボットの最新市場動向



シード・プランニング調べ

2030年に向けた家庭用AIロボットの最新市場動向

家庭用サービスロボット市場規模予測（億円）



●国内市場キダルト（キッズ＋アダルト）市場

国内では子供の数が減少していますが「大人が子供の頃買えなかった影響でおもちゃを購入する」キダルト（キッズ＋アダルト）市場が増加しています。

家庭用 AI ロボットは近年、キダルト（キッズ＋アダルト）製品の増加により国内キダルト市場が大幅に増加しています。その製品の中には家庭用 AI ロボットも含まれており、生活用品とおもちゃ両方に、サービスロボットは位置づけされています。

2030年に向けた家庭用AIロボットの最新市場動向

国内キダルト市場の位置づけ



シード・プランニング調べ

●大手企業参入が家庭用 AI ロボット促進要因に

2022 年以降は新規大手企業の参入が見られ、2030 年に向けて AI 搭載サービスロボットの市場拡大が期待でき

ます。

パナソニック E&C、カシオ計算機、シャープなど新規大手企業の参入が注目されており、コミュニケーション、癒し目的の 10 万円以下の製品やサブスクリプション販売の増加が促進要因と考えられます。

◆調査概要

調査対象：

【対象サービス】 家庭用サービスロボット

【対象企業】 家庭用 AI ロボットメーカー23 社、サービスロボットメーカー/

●23 社内訳

知能システム、タケロボ、オリィ研究所、ドーナッツロボティクス、レイトロン、セガフェイブ、ソニーグループ、ユカイ工学、CAI メディア、ZIPCARE、タカラトミー、ハタプロ・ロボティクス、GROOVE X、MIXI、ユピテル、Acalie、Preferred Robotics、パナソニック E&C、Gatebox、ルーナ・ジャパン、パートナーズ、カシオ計算機

調査方法：

弊社データベース及びオープンデータの活用、訪問取材&Web 取材、訪問取材及び電話・メール取材

調査項目：

家庭用 AI ロボットの参入動向、製品動向、市場動向、将来動向、業界動向、企業動向

調査期間：

2025 年 7 月～2025 年 10 月

本調査の詳細はこちら：

<https://www.seedplanning.co.jp/news/6142/>

資料についてのお問い合わせ：

広報宣伝部

E-mail : koho@seedplanning.co.jp